

主要事業個別シート(第2次実施計画/H27・28年度)

ver.1.01

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	市民文化部(文化振興局)
	19143	鈴鹿関跡範囲確認調査事業	室名	まちなみ文化財室
	基本施策の大綱	05:次世代を担う人づくりと歴史文化の振興	会計	01:一般会計
	基本施策	04:歴史文化の継承	款	10:教育費
	施策の方向	03:文化財の保存・活用	項目	05:社会教育費
戦略プロジェクト	-	目	05:遺跡調査費	
事業予定期間	H 20 ~ H 28 年度	主な根拠法令要綱等	文化財保護法・三重県文化財保護条例・亀山市伝統的建造物群保存地区保存条例	

② 目的・概要	対象	市民・土地所有者・来訪者・開発事業者
	目的	古代三関にあげられ、わが国の重要遺跡の一つである鈴鹿関について、保護の措置を図るため、国史跡指定への必須条件である調査報告書を刊行し、平成28年度中に古代三関で初となる国史跡指定を目指す。
概要	概要	平成27年度に調査報告書の刊行を行い、国史跡への申請(意見具申)をするとともに、講演会(調査報告会・シンポジウム)等を開催する。 平成28年度には、古代三関における鈴鹿関について全国に情報発信するため、パンフレットの作成や講演会(調査報告会・シンポジウム)等を開催する。

		平成27年度	平成28年度	
③ 年度別事業計画	事業の計画	<ul style="list-style-type: none"> 調査報告書(本冊・概要版)の刊行 調査報告書 A4版 200頁 500冊 概要版 A4版 16頁 1,000冊 調査報告書掲載図面整理 国史跡指定申請(意見具申) 講演会(調査報告会・シンポジウム)、展示等の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 国史跡指定記念パンフレット作成(2,000部) 講演会(調査報告会・シンポジウム)、現地見学会等の開催 	
		事業費	1,900千円	2,000千円
		国庫支出金	460千円	
		県支出金	240千円	
		地方債		
		その他		1,800千円
		一般財源	1,200千円	200千円
		事業費	1,850千円	1,982千円
		国庫支出金	460千円	
		県支出金	237千円	
地方債				
その他		1,800千円		
一般財源	1,153千円	182千円		
期間内総事業費(H27・H28)①		3,900千円	期間外事業費(H29以降)② 0千円	
		総事業費 (①+②) 3,900千円		

		平成27年度	平成28年度	(参考・平成29年度)
④ 指標	①	名称	講演会、説明会等の開催回数	
		補足	講演会(調査報告会・シンポジウム)、現地見学会等の延べ開催数	活動
	計画値	2	2	
	単位	回	回	
	②	名称	講演会、説明会等の参加者数	
		補足	講演会(調査報告会・シンポジウム)、現地見学会等の延べ参加者数	活動
	計画値	200	500	
	単位	人	人	
③	名称	国史跡指定の状況		
	補足		成果	
計画値	申請	指定		
単位				
④	名称			
	補足		活動	
計画値				
単位				

事務事業評価シート

H28(主要事業)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	市民文化部(文化振興局)
	19143	鈴鹿関跡範囲確認調査事業	室名	まちなみ文化財室
	基本施策の大綱	05:次世代を担う人づくりと歴史文化の振興	財	会計 01:一般会計
	基本施策	04:歴史文化の継承	務	款 10:教育費
施策体系	施策の方向	03:文化財の保存・活用	科	項 05:社会教育費
	戦略プロジェクト	-	目	目 05:遺跡調査費

② 目的・概要	対象	市民・土地所有者・来訪者・開発事業者
	目的	古代三関にあげられ、わが国の重要遺跡の一つである鈴鹿関について、保護の措置を図るため、国史跡指定への必須条件である調査報告書を刊行し、平成28年度中に古代三関で初となる国史跡指定を目指す。
概要	平成27年度に調査報告書の刊行を行い、国史跡への申請(意見具申)をするとともに、講演会(調査報告会・シンポジウム)等を開催する。平成28年度には、古代三関における鈴鹿関について全国に情報発信するため、パンフレットの作成や講演会(調査報告会・シンポジウム)等を開催する。	

		27年度	28年度
①	名称	講演会、説明会等の開催回数	計画値 2
	補足	講演会(調査報告会・シンポジウム)、現地見学会等の延べ開催数	実績値 8 単位 回
②	名称	講演会、説明会等の参加者数	計画値 200
	補足	講演会(調査報告会・シンポジウム)、現地見学会等の延べ参加者数	実績値 287 単位 人
③	名称	国史跡指定の状況	計画値 申請
	補足		実績値 0 単位 指定
④	名称		計画値
	補足		実績値 単位

年度計画				年度実績			
・国史跡指定記念パンフレット作成(2,000部)				・「古代三関」シンポジウムを開催。 開催日時:平成29年3月18日(土) 13:00~17:00 参加者数:300名			
・講演会(調査報告会・シンポジウム)、現地見学会等の開催				・「鈴鹿関跡」現地見学会を開催。 開催日時:平成29年3月19日(日) 10:00~12:00 参加者数:50名			
				・シンポジウムパンフレットを作成。 作成数:500部			
				・「古代三関鈴鹿関」啓発用具作成。 幟:100本 缶バッジ:1,000個			
④ 事業の計画・実績	事業費	事業費	計画額 2,000	予算額 1,982	決算額 1,842	人件費	総人件費 ① 2,197
		国庫支出金		0	0	一般職員人件費 ② 2,197	平均給与額×③
		県支出金		0	0	所要人員 ③ 0.30	
		地方債		0	0	臨時職員人件費 ④ 0	
		その他	1,800	1,800	1,800	受益者負担額 ⑤	
		一般財源	200	182	42	受益者負担率	0.0% ⑤ / ⑥
		再掲	翌年度への繰越額				
		前年度からの繰越額		0			
		総人件費		①	2,197		
		総コスト		⑥	4,039		

⑤ 事業の評価	【事業の成果】	総合判定
	・「古代三関シンポジウム」及び「現地見学会」を開催した。「古代三関シンポジウム」には約300名の参加者があった。また、「現地見学会」には50名の参加者があった。参加者の中には市外・県外からの参加者も多く見られ、市内外に「鈴鹿関」について情報発信をすることができた。 ・シンポジウム終了後、参加できなかった方から当日資料の送付依頼の連絡が電話・メール・手紙等で多くあるなど、鈴鹿関に関する注目度の高さが垣間見られた。	B まずまず進んだ
	【反省点・課題】 ・文化庁及び県教委との協議の結果、これまでの調査で確認された遺構・遺物について、より学術的な価値付けをした後、国史跡申請をするよう指導をいただいたため、未申請となった。	
	【改善の方向性】 ・鈴鹿関についての理解をより深めていただき、なお一層の保存と活用を図るため、これまで確認されている遺構・遺物について学術的な価値付けを行うための学術調査を行う。	
事業目的の妥当性: 適切		有効性: 適切
最終評価確認者: まちなみ文化財室長 山口 昌直		